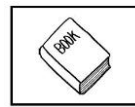




「東風(こち)」図書館だより  
令和2年(2020)年度 第2号  
福岡県立嘉穂東高等学校  
図書専門委員会発行

今年は、新型コロナウイルスの影響で、芸術鑑賞会は残念ながら中止になってしまいましたが、10月27日には、毎年一回名作に親しもうという目的で、朗読会が行われました。今年の作品は、宮沢賢治さんの「よだかの星」でした。みなさんが書いてくれた感想文の一部を紹介します。

## 朗読会 「よだかの星」



・始めの文章で、よだかの容姿は本当にみにくい鳥という風に書かれていたり、何もしていないのに他の鳥たちからいやがらせをされてとてもかわいそうだと思います。しかし、他の鳥たちがよだかよりも美しい容姿をしていたとしても、よだかの心より美しい心を持った鳥などこの物語の中にはいないでしょう。なぜなら普段のみんながあたりまえのように行っている食事を「かぶとむしやたくさんの羽音が、毎晩僕に殺される」という風に考えているからです。よだかにとってのたかのような存在は私たちにはいないですが、私も普段の食事の前の「いただきます。」の時に食べ物に感謝したいと思います。また、物語の最後によだかは星になりました。カシオピア座のとなりだとかいてあるので探してみたいです。(1年 女子)

・最後まで聞きやすく、話の内容が入りやすい放送でした。また、登場人物によって、話し方を変えたり、声の大きさを変えたりなど細かな所まで意識をされていて、とてもよかったです。また、この宮沢賢治の作品は今まで読んだことはなかったけれど、教科書に載っているほど有名な作品なので、今日の朗読会を機に最後まで読むことができたので、よかったです。このよだかの星という作品から、見た目だけで判断しないなど、様々なことを改めて気づかされました。これから他の宮沢賢治の作品をもっと自分から積極的に読んでいこうと思います。(2年 男子)

・私はこの作品を読んで、見た目だけで判断することは人間であっても鳥であってもどんな動物でもいけないことだと思いました。よだかはどんなに悪口を言われても言い返したりせず我慢をして、逆に良いことをしても悪者扱いをされて本当にかわいそうだと思います。それどころか、自分が生きていくために食べる虫にすら悪いという気持ちを持ち、川せみに、お魚にいたずらをしないようお願いをしていたのでよだかの優しさが伝わりました。話の最後のあたりで、青い美しい光になっ

て、静かに燃えているというところから、醜いと言われていたよだかが、地球から誰でも見ることのできる星という輝いた存在になることができ、私も嬉しい気持ちになりました。(3年 女子)

## ★先生のおススメの本★

### 『Once Upon a Time in Japan』 出版社:チャールズ・イー・タトル

日本にはこどもの日に邪気を払うためしょうぶ湯につかる風習があります。その起源を知っていますか？人間を食べたくて人間の男と結婚した妖怪。ある日、旦那を食べてしまおうと襲い掛かります。必死の思いで逃げた先に菖蒲畑が…この本は8編の日本の昔話を英語で紹介している絵本です。私のお気に入り The Wife Who Never Eats です。高尾先生

### 『こころ』 夏目漱石

夏目漱石晩年の長編小説が「先生と私」「両親と私」「先生と遺言」の3部からなっています。教科書に掲載されているので全文を読んでいない人は必ず読みましょう。

他にも...

『スタンフォードの自分を変える教室』 ケリー・マクゴニガル

『「友達って何だろう？」ひとりになる勇氣、人とつながる力』 齋藤孝 がおすすめです。大塚 洋一先生

### 『七人の名探偵』 綾辻行人他

私が推理小説を好きになるきっかけとなった綾辻行人さんの「十角館の殺人」の刊行から30周年を記念して出版された本です。7人の作家さんが書いた短編集です。作家さんによってカラーがあり、面白いので、ぜひ読んでみてください 山田先生

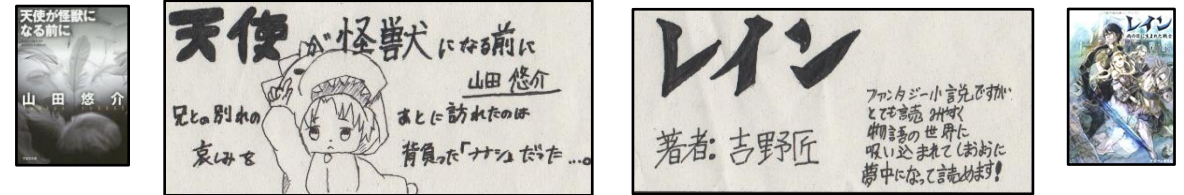
### 『サクッとわかるビジネス教養 地政学』 奥山真司

書名の通り地政学に関する本です。ユニークなイラストやグラフを用いて、地政学とはそもそも何か、から始まり、地政学から見た世界情勢など、なるほどなあと思えることが書かれています。お薦めというより、私が読み始めた本ですごく読みやすそうなので、紹介しました。大塚 多恵子先生

## 『世界の日本人ジョーク集』 早坂 隆

ちょっと古い本になってしまいましたが、ウィットにあふれる本です。日本の常識にしばられるのではなく、世界の人々はいろんな価値観を持っているのだと楽しく知ることができます。

村田先生



## 『砂の女』 阿部公房

私が高校生の頃、飯塚市内の書店で偶然見つけ読んだ本です。はじめはだらだらと意味も分からなかったが、少しずつ想像を膨らませながら読み進めると、著者の文章について引き込まれ、まる1日かけて読んでしまった。次の展開はどうなるのかと心を惹きつけられるので、皆さんにもお勧めしたい本のうちの1冊です。作品自体は現在では古典の部類になるのかもしれませんが、20か国以上で翻訳がなされているとのこと。舞台は山形県内の地方をモデルとしているといわれています。ある人は突然、一人の女性が昆虫採集中の男に騙されて砂穴(閉塞した地域共同体)の中に幽閉されて、砂の中に埋もれた村で砂掻きの仕事に強制従事させられるとてもショッキングな内容です。砂の中で生活すること、無力感や学習することはどういうことか、自由や幸福とは何なのかを深く考えさせられます。一貫して人間の不条理を描いた作品です。今でいうとブラック企業で働いている人たちも、ある意味似たような生き方なのかもしれません。仕事に忙殺されて生きている人々への生き方に警鐘を鳴らしていると思います。人間の本質や生き方を問う作品で一読の価値があるものと思います。

石坂先生



あの夏が飽和する  
著 カンザキ 依リ  
十三年前、逃避行の果てに、流花を失う。尋ねて流花の生き写しである瑠花と非行に走る武命を救うための、ひと夏の闘いの物語。



### ★貸出本ベストランキング★

順位	書名	著者名	出版社
1	ないものねだりの君に光の花束を	汐見 夏衛	KADOKAWA
1	僕の永遠を全部あげる	汐見 夏衛	一迅社
1	事故物件怪談 怖い間取り	松原 タニシ	二見書房
1	青くて痛くて脆い	住野 よる	KADOKAWA

※1位が4作品もあります！

### ★貸出冊数クラスランキング★

順位	クラス	貸出冊数
1	1年5組	213冊
2	1年6組	143冊
3	2年3組	113冊

☆全体の貸出冊数は  
**1,347冊**  
でした！  
(昨年は1,151冊でした)

(いずれも集計期間は令和2年7月1日～11月30日)

\*今回の図書日より「東風」の制作は、2年生の図書委員が担当しました。

## 図書委員おススメの本！



猫が見ていた  
湊かなえ 他  
人気作家たちが書き下ろす  
猫の小説全7編

